

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300016		
法人名	株式会社チェリーコート		
事業所名	チェリーコートグループホーム		
所在地	千葉県四街道市大日549 - 1		
自己評価作成日	平成23年12月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2 - 10 - 15		
訪問調査日	平成24年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの目標・理念である「居心地の良い我が家」であり続けることは、これまでも、そしてこれからも変わることはありません。そして共同生活の中で、日々変化し続けるであろう身体状況、または認知症状に対して、私たち職員は、常にご家族様との連携を図りながら「チームケア」で日々根気強く支援することを心がけています。また、地域の皆様方のご配慮により、毎年夏祭りや餅つき大会などに入居者様と職員が地域の一員として参加させて頂いており、現在では、欠かすことのできない季節ごとの楽しい行事としてすっかり定着しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の気付きを大切にし、毎月のカンファレンスで日々変化し続ける入居者一人ひとりの課題分析を行いチーム全員でケアの方向性を決め、本人・家族の意向を尊重し、現状に即した介護計画を作成している。入居者にとって「居心地の良い我が家」であり続けることの目標を掲げ、8項目のサービス提供理念を管理者と職員が共有し、入居者一人ひとりの有るがままを受け入れ、入居者と同じ目線で寄り添うケアを実践し、チームワーク良く目標の実現に向けサービスの提供に努めている。運営推進会議議事録等からも、地域に溶け込み良く連携の取れているホームであることが伺える。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年の事業計画に施設の理念等を明記し、その理念を全職員が共有し、常に意識した上で日々の生活支援を行なっている。	「居心地の良い我が家」であり続けるとの基本理念実現のためのサービス提供に関する8項目の理念をミーティングなどで話し合い共有している。管理者自らが常に理念に立ち返って自ら「やってみせ、言って聞かせてやらせてみて、職員一人ひとりに気付かせる等、職員全員が理念に根差したサービスを提供できるよう良く努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者自らが自治会に参加したり、施設主催の敬老会や運動会に地域の方毎回お招きしている。その他では月1回の地域体操やお茶会などを実施するなど常に日常的に交流を図っている。	町内会の餅つき大会や納涼祭に多くの入居者が参加。併設施設と共同開催の敬老会・運動会や毎月開催のもっと元気になり体操やお茶会に地域の方々をお招きし、近隣の子供たちや老人会の方々が多く参加する。社会福祉協議会と共同で「子育てサロン」を新たに開催する等、地域との双方向の交流が良く行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての講演や転倒予防体操などを引き続き地域に向けて発信している。また、今期は新たな取組みとして、社会福祉協議会と共に「子育てサロン」を開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の入居者様の様子や取組みについて常に報告している。また、できるだけ質疑応答の時間を長く設け、ご家族・地域・行政などからサービス等に対してのざっくばらんなご意見を頂きサービス向上に努めている。	利用者の状況、行事、外部評価、ターミナルケア、防災対策、感染症対策、認知症ケアについてなどを議題として定期的に開催している。市の職員・民生委員・地域の方・自治会長・家族等多方面の方々が出席し、活発な意見交換が行われ内容の濃い、サービス向上に活かせる運営推進会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者には、必ず運営推進会議に出席頂き事業所の実情や取組みなどを常に把握できるよう努めている。また、その他にも必要に応じて随時相談や報告を行なっている。	市の高齢支援課など関係者とは常時連絡を取り合い、利用者状況の報告やサービス提供の取組等を報告するとともに、気軽に相談にも乗って頂ける等良好な関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やカンファレンス等を通して、全職員が身体拘束についての理解を深めた上でのケアを行っている。	身体拘束の具体的な行為・見える拘束・見えない拘束・拘束することの弊害など充実した研修が毎年行われている。職員全員が身体拘束についての認識を高め、身体拘束をしなくても済むケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に研修等により、虐待についての明確な認識を共有した上で、日々のケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を行い権利擁護に関する制度等についての理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関してはじっくりと時間をかけ、できる限り細やかな説明を行い、不安や疑問点について一つずつ解決できるよう常に心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日々の生活の中での入居者様のニーズを常に見逃さないよう努めている。また、ご家族様には面会や運営推進会議の際に、自由にご意見を言って頂けるような雰囲気を作り、頂いたご意見を運営に活かせるよう心がけている。	「近況報告・行事報告と課題」を手書きの便りと写真入りのケアモール便りを毎月送っており大変好評である。家族には運営に関するどんな些細なことでも言って頂くよう面会時や電話の度にお話し信頼関係を築くようにしており、意見や要望も良く言っていただけしている。お聞きした意見は常勤会議などで共有し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のミーティング等で、全職員と業務等についての活発な意見交換を行い、業務での改善事項などがあれば、その都度、皆の意見が反映できるような仕組みを作っている。また、日頃から職員の様子や変化に気を配っている。	月2回のミーティング等で業務分担や業務スケジュールの変更や新しい夜勤者への業務サポート等の職員から提案し話し合い、新しいマニュアルに変更するなど職員同士で話し合っ運営に反映させる仕組みが良く機能している。職員の間人関係を大切にしたいとの管理者の思いが職員に良く伝わっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との連携のもと、全職員が職場において意欲的に、そして安心して働くことができるような職場環境または条件の整備を心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行なうことで、個々のスキルアップを図ると共に、現場にて管理者またはユニットリーダーを中心に、個々の力量に合わせた技術指導を随時行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の新しいグループホームとの交流を図りたいと考えており、現在先方の管理者等と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居される前に、あらかじめご本人の要望等について十分に伺い、安心して共同生活をして頂けるようニーズに沿った支援を提案し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご家族様とは十分に話し合い、その中で不安・要望等について真摯に耳を傾け、できるだけ初期の段階で信頼関係を築いた上で、安心してご入居頂けるよう常に心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前の段階で、ご本人やご家族様と複数回の面談等を行い、その中から「現時点で一番必要な支援」を見極め、その状況によって他のサービスの必要性や、実際の利用についての手配などの対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、グループホームの中では「家族」であり、時には叱られたり、共に笑ったりして、あくまでも、共同生活の中の1人であるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者自らが、日頃からご家族様とお電話等で常に連携を図るとともに、いつでも気軽に面会に来ることができる環境を作り、ご家族様も本人の支えになっていることを実感できるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お元気だった頃、親しかった方などに面会に来て頂いたり、ご本人が以前仕事をしていた畑にお連れして、ご家族様と一緒に昔のことを話し、懐かしんで頂くなどして関係継続に努めている。	住んでいたご近所の方が訪ねてくる・友人が訪ねてきて出前の寿司と一緒に食べながら「友人の名前を呼んで元気が」などと談笑する入居者や娘さんと一緒に馴染みの美容院に行く・以前仕事をしていた畑にお連れする入居者、年賀状や手紙のやり取りをお手伝いする入居者の方等、関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の性格・相性なども十分に考慮し、リビングでの座席配置を随時考えるなど、お互いができるだけ良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	万が一、退所されることになっても、その後の入所先等についての相談などにも、随時対応させて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での何気ない会話や表情の中から、その時々ニーズを感じ取れるよう心がけている。また、その他では、定期的なカンファレンス等でご本人の変化していくニーズを常に検討している。	1日のうちでも変化が起こっており常に見守りすることで気付きがありそれに対して早急に対応している。業務ミーティングでは個々のカンファレンスを行い、密に利用者のご様子を把握し思いや意向の把握に努めている。利用者が発した言葉からニーズを感じ対応すると利用者が「あ～嬉しい」と喜んでいただいている。毎日スタッフと囲碁を打つことで生活の中に張り合いができている利用者もいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを開始する際に、全職員はご本人の生活歴または環境などを十分に把握した上で、実際の生活の支援を行なっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況については、日々のケア記録を時間ごとに細やかに記録することで、1人ひとりの1日の生活リズムを把握しやすいようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居される前に、共同生活でのこれからの課題等についてを、ご本人・ご家族様と十分協議して常にプランに反映するようにしている。また、入居後の生活でその都度発生する課題等については、毎月のカンファレンスにて検討し、状況に応じてプランに盛り込み常に現状に即した介護計画を作成している。	職員がどれだけ気付くかがいいケアにつながることを考えチームケアを大切に、気付きが反映されたわかりやすい課題と目標を掲げているプランとなっている。毎月評価を行い3か月に1回は担当者会議を開催し本人の思いや意向の把握に努めている。業務ミーティングではテーマを決め職員から聞き取りをし、家族とはカンファレンスや運営推進会議後に面談をし、本人と家族の意向を反映させる等現状に即したプランを作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日々のケアの中で常に細やかな記録を記入し、その後の申し送り情報共有できるよう努めている。また、カンファレンスでも日々の記録を参考にプランの見直しを行なっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望があれば、管理者自らが、随時自宅に訪問し、ご本人の家財道具などを車にて搬送し、居室に設置するなどの臨機応変なサービスができるよう常に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員は地域の行事や、高齢者でも安心して食事のできるお店、または散歩しやすい公園などを詳細に把握しておくことで、その時々ニーズまたはADLによって対応できるよう常に準備している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際は、前もって医療的なニーズも十分に伺った上で、主治医との連携を図っている。また、日々の生活の中で、随時発生する負傷または疾患等についても、ご家族様・主治医と相談し、必要に応じて専門医などへの受診も行なっている。	全員が、入居時に同意をいただき同敷地内の診療所の医師をかかりつけ医としている。月2回の往診では診療予定患者リストを作成し容態の変化・相談したいこと等を予め看護師に話し医師からの指示などを仰いでおり適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて整形外科や婦人科へは職員が同行したり、訪問マッサージや訪問歯科を利用している。病院受診記録票には受診理由・検査内容・診断結果・薬処方、家族との連絡が記載されている。日々の生活の中での変化を診療所の看護師に電話をして支持を仰ぐことができる体制となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での体調変化や気づきについては速やかに看護師へ相談し指示を仰ぐよう心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院の際には医師との情報交換等の連携を図り、ご本人が安心して治療に専念し、出来る限り早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前からの課題であった、ターミナルケアについての施設としての方向性またはできることについては、運営推進会議などで明確に説明している。また、ご家族様との話し合いについては、少しずつではあるが進んでいる。	ターミナルケアについて看護師による社内研修を2回実施し、基本的なターミナルに向けての考え方や方針・職員の心構えなど学び、医療との連携も含め、体制を整えている。運営推進会議でも報告をし、今の時点での状況等終末期に向けた方針を家族と順次話し合いをしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等でそれぞれの状況に応じて救急搬送の必要性の有無なども含めて対応できるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、非難に要した時間を必ず計り、有事に、より迅速な対応が常に行えるよう心がけている。また、夜間帯などは地域との協力体制も大きな助けになっている。	避難訓練は習慣付いており月に1回、火災の想定を変えて工夫して実施している。避難訓練実施報告書によると一昨年7月には誘導する時間が約15分かかっていたが、今では約4・5分位と手際がく行えている。災害時地域連絡網も作成している。震災時に近くの職員3・4名がすぐ駆けつけた実績もある。備蓄はすぐ近くの同経営の施設に備えられている。	災害の専門家のアドバイスをいただき、同系列の有料老人ホームと連携し災害対策委員会を立ち上げる等色々な取り組みが行われている。何時起こるか判らない災害に備え、近くの職員の夜間招集訓練など更に万全の対策をしておかれることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、個々の入居者様の性格・特徴等を十分に把握した上で、日常生活の支援を行っている。また、その方にとって最もふさわしい言葉かけができるよう心がけている。	基本はさん付けで呼んでいるがお元気だった時の生活歴を考え一家の長である利用者は「お父さん」と呼ぶ等一人ひとり丁寧に対応している。言葉遣いや声掛けには気を付けており「あの人は嫌い」と投げかけてくる利用者には時間をかけてお話を聞くようにしている。就寝前には言葉遣いに気を付けながら昔の話をする等安心していただくようにお話をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から、それぞれの方が意思決定がしやすいような言葉かけをするよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様についての1日の生活リズムやペースを、職員は常に把握し支援を行っている。時には買い物に行ったり、散歩に出たりすることもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床されてからの着替え等については、できるだけご本人の希望に沿った洋服を選んで頂けるよう配慮している。また、着替えを済ませたらリビングの鏡の前で、整髪などをして頂くよう心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況や、その日のご気分などに配慮しながら、食事の準備や片付けなどをしてもらったり、自宅で使っていたお箸や茶碗などを使って頂きながら、みなさんとテーブルを囲み食事を楽しんで頂けるように努めている。	利用者の中で一人、窓側の席が気に入って座っているが、他の利用者は丸テーブルを囲み、馴染みの食器で食事を摂る等楽しく食事できるよう工夫している。配膳・おしぼり配り・洗い物や食器を拭く等お手伝いをしている。「片付け物がありますか」と自ら声を掛ける利用者もいる。ホットプレートで焼き肉・焼きそば・お好み焼きを利用者と一緒に作ることもある。家族訪問時に部屋へ出前を取る利用者や家族が本人をお連れして外食をする利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、常に日々の支援の中で、入居者様の食事量や水分量を記録し管理している。そして、その時の健康状態に応じて、ごはんをおかゆに変更するなど、臨機応変に対応するよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがい等を、個々の状態に応じて行っている。尚、その際にはできるだけ、それぞれの方の残存機能を大切にしながら行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で、排泄についての変化が見られる方については、習慣・サイン・リズム等を十分に把握した上で、職員の声かけなどによって、出来る限りトイレでの自立した排泄が維持できるよう支援している。	排泄パターン表をつくり個々のパターンに合わせた支援を行っている。ティッシュを取ると排便のサインという利用者もあり、職員は逃さず声掛け誘導を行う。夜間、失禁がみられる利用者は最初からパットを使用するのではなく声掛けを行った結果、失禁がなくなった。日中パンツ2人、リハパン7人。立位が取れなく医師からの指示で夜間オムツ使用が2人。排泄の自立に向けた支援への取り組みが良くなされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、研修等で便秘についてのメカニズムを把握し、その上で日々のケアを行っている。そして、日々バランスの取れた食事を摂って、適度に身体を動かすことを習慣にしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立されている方については、ご本人の希望に沿って入浴して頂いている。また、全介助の方は入浴に対する恐怖感・不安感などがある為、常に職員2人対応で、安心してゆっくりと入浴ができるよう配慮しています。そして、冬期などは、できるだけ早めに浴室や脱衣所を暖かくしておくなどの工夫をしている。	個浴であり希望に応じて一人一人ゆっくり入っている。必要な利用者には職員が2人で介助を行う。浴室と脱衣所の温度差がないよう暖房し不快のないよう入浴の環境を整えている。拒否の強い利用者に対しては何度もアプローチし声掛けの工夫をしている。状況によってはシャワー浴や清拭で対応し清潔保持に努めている。菖蒲湯やゆず湯等季節に応じたお風呂も楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の必要な方や、いつも決まって最後に休まれる方、眠る前に不安を感じる方など、それぞれの方の習慣または、特徴を十分理解し、それらを大切にしながら、安眠ができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書や往診時の診察内容については、常にファイリングし全職員が情報共有できるようにしている。また、服薬変更などがあった際にも、その後の変化などの様子について、随時主治医等と連携を図りながら、注意深く支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦として生活していた時の記憶などは、個人差はあるものの、比較的自己の中に、少なからず存在している方が多いことなどから、食後の洗い物、お鍋やお皿の後片付け、洗濯物たたみなどをして頂くと、表情または仕草が生き生きしてくる方には、自分の役割としてお願いしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は、できるだけご本人の希望等を伺った上で、外食やドライブ等の日常的な外出支援を行っている。また、地域の方のご協力もあり、夏祭りや餅つき大会など、普段参加できないような所にもお招き頂いている。その他では、ご家族様の配慮により、毎月1回必ず一緒に外出される方もあります。	地域の協力のもと、夏祭りや餅つき大会等の行事に参加している。家族と一緒に外出する利用者もいる。お花見・鯉のぼり見物などのイベント外出も行われている。和食、洋食等、利用者の希望を伺って外食を楽しんでいる。職員が余裕のある時はスーパーまで日用品を買いに行ったりしている。	寒いからと拒否する利用者や帰宅願望の強い利用者があり外気浴や散歩等をする機会が少なくなっているとのことである。五感刺激による活性化や下肢筋力の低下防止、ストレスの解消などの意味も含め、散歩等の日常的な外出支援を更に工夫されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところお金の所持や管理はしていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前からの友人などからお手紙などをいただくことはありますが、お返事を書くことは少し難しいようです。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からの直射日光に対する配慮や、テーブルにはなるべく花などを飾り、季節を感じると同時に共用空間ができるだけ華やかになるように心がけています。また、温度や湿度が不快に感じないように常に注意しております。	リビングには壁一面の大きな窓があり明るい。朝食時は眩しいのでカーテンで調整する。テーブルに季節のお花を飾る等季節感を出すと同時に華やかな共用空間となるよう工夫している。テレビの音量は職員が注意して調整している。温度・湿度は職員が管理している。新聞を読む習慣がある利用者の為にリビングに新聞を用意している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には、みなさんと丸テーブルを囲み、気のあった方と自由に交流ができるよう配慮しています。また、どうしても窓際に1人で座りたい方についても、別テーブルを用意して、そこから外を眺めながら、のんびりと過ごして頂けるように工夫しております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談しながら、居室にはできるだけご本人に馴染みのある物を置いて頂き、日々穏やかに、そして安心して過ごせることができるよう配慮している。また、冬期には加湿器をお持ち頂き、居室が居心地の良い空間になるよう日々注意している。	入居前に「できるだけ馴染みの物を持ってきてほしい」と伝え、職員が自宅に行って馴染みの物を運び居室にセットしている。囲碁盤・額縁(賞状等)・家具・机・写真・ビデオ(能)・ラジカセ等がある。家族が週1回お花を持参し部屋に飾っている利用者もいる。居室の湿度は職員が夜間計り、45%以上を保っている。加湿器の水の補給もまめに行っている。咳が聞こえたら、さ湯を用意し水分補給していただいている。転倒防止にタッチアップ(手すり)を設置している居室もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとの表札や、「トイレ」などの表示を明記することで、ご自分の意志と動作で目標の場所まで行くことができるよう配慮している。また、廊下に手すりが付いていることで、掴まり歩行でほぼ自立してトイレ等に行くことができるように工夫している。		